

## I 導入部

おはようございます。今日も愛する皆さんと共に、私たちの救い主であるイエス・キリスト様を賛美し、礼拝できますことを心から感謝致します。今日はペンテコステ(聖霊降臨日)の礼拝です。イス様の誕生を祝うクリスマス、イエス様の復活を喜ぶイースターと並んで、キリスト教会ではとても大切な礼拝です。毎週の礼拝は大切なものですが、クリスマス、イースター、と並んでペンテコステ礼拝はとても大切に、重要な礼拝です。クリスマス、イースターは、この世においても有名です。あのディズニーランドでも、クリスマス、イースターは宣伝、人を呼び込むものになっています。しかし、ペンテコステは、クリスマスやイースターと違ってわかりにくいものであり、この世の人々にも、紹介しにくいものです。クリスチャンやキリスト教会でさえ、ペンテコステ礼拝を特別な事として祝う、喜ぶということはあまりないように思います。私は、日ごろから、それはおかしいと思っていて、何とかペンテコステ、聖霊降臨日の礼拝は特別感を持つ礼拝としたいと願っておりました。青葉台教会では、ペンテコステ礼拝では聖霊を象徴する赤色のものをつけて礼拝に出席するとか、教会学校では、教会の誕生を記念してケーキを食べるということをしていました。今年は、会堂では特別な聖霊の象徴を示す表現がなされております。4月の役員会で、ペンテコステ礼拝では特別感を出したいとお話ししたら、「では、先生はガウンを着て、赤のストールをつけて説教したらどうでしょうか。」ということでしたので、今日はこの格好をしております。特別感なのです。最近随分暑くなっていました、今日は幸い温度が低めですから、助かりました。案外このガウンは暑いのです。ガウンを着ていると聖霊に満たされたように、心も体も暑くなるのです。

私たちは、今日のペンテコステ、聖霊降臨日の礼拝を特別感を持って心からの礼拝をささげたいと思うのです。今日は、使徒言行録2章1節から13節を通して「無関心ではいられない出来事」という題でお話し致します。

## II 本論部

### 一、聖霊降臨の具体的な事例

2章1節には、「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていた」とあります。リビングバイブルには、「さて、イエスの死と復活から、七週間が過ぎました。五旬節(ユダヤ教の祭りの一つ)の日です。」とあります。「五旬祭の日」とは、ギリシャ語ではペンテコステで、50番目という意味を持っています。ペンテコステ、聖霊降臨日は、イエス様が復活されて50日目にあたります。また、イエス様が昇天されて10日目になります。ペンテコステは、今でもユダヤ人の祭りとなっています。ユダヤ人は、このペンテコステの時期に七週の祭りを祝います。七週の祭りは、過越しの祭り、仮庵の祭りと並んで三大祭りのひとつです。ペンテコステは、過越しの祭りから50日目なのです。七週の祭りは、ユダヤ人が穀物の初穂を神様にささげて感謝するのです。また、七週の祭りは、モーセがシナイ山で律法を神様から授かったことを感謝する意味合いがあります。1節には、「一同が一つになって集まって」とあります。つまり、ペンテコステは、個人に起こったのではなく、群れに起こった出来事だということです。聖霊が降ることで、群れが、神の民が新しくされ、新しい言葉が与えられたということです。ペンテコステは、イエス様の約束の言葉を信じて待ち望んだ群れの再生、新しい神の民の誕生、それはキリスト教会の誕生を示しているのでしょう。2節には、「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞

こえ、彼らが座っていた家中に響いた。」とあります。ペンテコステ、聖霊降臨、神様の業は突然でした。「突然」とは、神様の主権的な介入です。突然とは、予告なしに、思いがけずにとのことでしょう。聖霊の降臨は、人間の側の計画や準備ではなくて、神様の時に、神様の主権のもとでなされたものです。私たちの側から見れば、ペンテコステは、イエス様の復活から50日目、イエス様の昇天から10日目ですが、弟子たちから見れば、予想外のタイミングでなされたことでした。また2節には、「激しい風が吹いて来るような」とあります。風は、聖書全体で神様の息、いのちの源を象徴しています。それは、目には見えない圧倒的な神様の力でした。風というものは、見えませんが働き、動かし、変化を起こします。聖霊は、目には見えませんが、確実に働かれる神様の力として示されています。ペンテコステの風は、神様が新しい創造を始められたしるしなのです。「天から聞こえ」とは、聖霊とは、人間の内側から湧き出る感情ではなくて、神様ご自身が上から与える力、神的権威を示しています。また、「彼らが座っていた家中に響いた。」とあります。神様の臨在が満ちて、聖霊の臨在が家の空間全体を満たしたのです。旧約聖書では、幕屋や神殿に、神様の栄光が満ちたとありますが、それを思わせるものです。聖霊は、神様の時に、神様ご自身の主権のもとに与えられたものでした。聖霊は私たちの信仰の強さや能力によって与えられるものではありません。神様の主権で、恵みで、私たちの弱さの中にも働かれるのです。私たちは、自分の信仰が整ったから、霊的になったから聖霊を祈り求めるのではなくて、整っていないからこそ、弱いからこそ、聖霊を祈り求めたいのです。

## 二、聖霊に満たされた者は神様の言葉、福音を語る

3節を見ると、「そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。」とあります。「炎、火」は、神様の臨在、清め、導き、力を象徴しています。モーセは燃える柴の中で神様に出会い、荒れ野では夜、火の柱がイスラエルの民を導きました。ペンテコステの火は、神様が一人ひとりに臨在し、心を燃やし、使命に導く火となるのです。炎、火は、神様がそこにおられるというしるしなのです。聖霊が神様の臨在そのものとして与えられたのです。なぜ炎が「舌」の形かという、この後弟子たちは語り出すのです。炎の形が舌であるというのは、聖霊が語る力を与えるということの象徴です。聖霊は語り出す霊とも表現できるでしょう。「分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。」とあるように、全体だけではなくて、一人ひとりに与えられたのです。旧約聖書において、神の霊は特定の人、特別の人、預言者や祭司、王にしか与えられませんでした。しかし、ペンテコステでは、120名全ての者に与えられたのです。また、「とどまった。」とあります。一時的なものではなくて、継続的な臨在なのです。イエス様は、「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。」(ヨハネ 14:16)と語られました。リビングバイブルには、「その助け主は、絶対にあなたがたを離れません。」とあります。4節には、「すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」とあります。リビングバイブルには、「するとどうでしょう。その場にいた人は、一人残らず聖霊に満たされ、知りもしない外国語で話し始めたではありませんか。聖霊が、それだけの力を与えてくださったのです。」とあります。「一同は聖霊に満たされ」とあります。聖霊で支配される。内側が聖霊で占領されるということです。聖霊が120名の全ての人の心、思い、意志を完全に支配し導くという状態です。聖霊に満たされるとは、神様の霊が120名の者たちの内側を支配し、心と思い、意志と行動を神様に向けさせて、イエス・キリスト様を証しする力を与えました。それは、感情的な高揚や特別な体験というのではなくて、神様の霊によって内側が変えられて、外側に押し出されるのです。また、「一同」ですから、弟子たちだけではなく、120名全員、男女、年齢、身分にかかわらず、聖霊で満たされたのです。「“霊”が語らせるままに、ほか

の国々の言葉で話した。」とあり、聖霊で満たされた人は、外へ向かう力が与えられ、平安が与えられるにとどまらず、必ず語る方向へと導かれる、押し出されるのです。弟子たちは、自分の力で語ったではありませんでした。聖霊が口を開き、言葉を与え、語らせたのでした。言葉の賜物が弟子たちに与えられたといってもいいのでしょうか。弟子たちは、聖霊に取り扱われたのです。ペンテコステは、言葉の奇跡の出来事でした。11節の後半にあります。聖霊に満たされた120名の者たちは、神様の偉大なみ業を語ったのです。私たちも、聖霊に満たされて内側が変えられ、整えられて、神様のみ業、つまり、福音、イエス様の十字架と復活を語る者にさせていただきたいと思うのです。

### 三、聖霊はキリスト教会に、キリスト者に魅力と力を与える

5節には、「さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、」とあります。リビングバイブルには、「その日、エルサレムには、たくさんの敬虔なユダヤ人が、祭りのために、世界のあちこちから集まっていた。」とあります。当時、ユダヤ人はローマ帝国の全域に散らされていました。これらの人々のことをディアスポラと言います。散らされた人々が、祭りのためにエルサレムに集まっていたのです。これらの人々は、律法を忠実に守り、祭りを祝うためにエルサレムに集まるほどの信仰深い人々でした。ペンテコステは、ただ群衆の前で起こったというのではなくて、律法に忠実で、信仰深い人々の前で起こった出来事でした。ペンテコステの最初の目撃者は、信仰深い人々であったということです。やがて、彼らは自分たちに国に帰ることで、福音が広がるという土台ができたのです。「あらゆる国から」とありますが、国が違えば言葉も違います。あらゆる国から来た人々は、言葉が通じ合わない人々であり、心と心も通じ合わない人々だったのでしょうか。お互い全く別の世界に属していた人々でした。6節を見ると、「この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。」とあります。リビングバイブルには、「この大音響に、人々は、いったい何事かと駆けつけましたが、弟子たちの話していることばを聞いて、すっかり面食らってしまいました。まぎれもなく自分たちの国のことばだったからです。」とあります。聖霊が降り「彼らが座っていた家中に響いた。」とある、大音響を聞いて、人々はびっくりしたのです。聖霊に満たされた弟子たちが外に出たのではなくて、大音響を聞いた人々が集まってきたのです。聖霊の働きは、教会やキリスト者が努力して集める以上に、人々を引き付ける魅力と力があるのです。そして、自分たちの故郷で話されている、自分たちが理解できる言葉で話されているので、あっけにとられたのでした。7節、8節には、「人々は驚き怪しんで言った。「話しているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。」とあります。人々はどうして、「皆ガリラヤの人ではないか。」と言ったのか。それは、ガリラヤと聞けば、田舎であり、学問のない地域だと思われていたからです。そのガリラヤの人々があらゆる国の言葉で語っていることに驚き怪しんだのです。9節から11節前半には、世界各地の名前が上げられています。パルティアは、現在のイラン北東部で、ローマと対抗する大国パルティア帝国の中心であり、バビロン捕囚後に、この地域には大きなユダヤ人共同体が形成されていました。メディアは、イラン北西部で、旧約ではペルシャと共にバビロンを滅ぼした民族です。ユダヤ人の捕囚民が多く住んでいました。エラムは、イラン南西部で、古代から強国のエラムの地、エステル記の舞台スサはこの地域。ペルシャ世界全体にユダヤ人が広がっていたことがわかります。メソポタミアは、チグリス川、ユーフラテス川流域、イラクであり、文明の発祥地です。バビロン捕囚後、多くのユダヤ人が住んでいました。ユダヤは、イスラエル南部で、エルサレムを含むユダヤ人の中心地です。地元のユダヤ人も聖霊の働きを目撃したのです。カパドキアは、現在のトルコ中部であり、ローマ帝国の

属州でした。ユダヤ人が多く住む地域でした。ポントスは、黒海沿岸トルコ北部であり、交易が盛んな地でした。アキラとプリスキラのアキラの出身地。アジアは、トルコ西部、エフェソ、スミルナなどです。ローマ帝国の重要な属州。大きなユダヤ人共同体が存在していました。後にパウロの中心的な宣教地になる所です。フリギアは、トルコ中西部でギリシャ文化の影響が強い場所。異文化地域にもユダヤ人が散らされていました。パンフィリアは、トルコ南部の地中海沿岸。港町が多く、国際色豊かな場所。海路で移動するユダヤ人が多くいました。エジプトは、ナイル川流域で、アレクサンドリアは、当時最大のユダヤ人都市でした。ギリシャ語訳聖書セプタジェンタ(七十人訳)が生まれた場所。キネレに接するリビア地方は、北アフリカ、現在のリビアで、ギリシャ文化の都市キネレ。イエス様の十字架を代わりに背負ったシモンの出身地。ローマは、イタリアでローマ帝国の中心。大規模なユダヤ人共同体が存在していた。クレタは、地中海の島クレタ。海上交易の中心で、島にもユダヤ人が散らされました。アラビアは、アラビア半島北部、ペトラを中心とする交易国家。ユダヤ人とアラブ人の交流は深いものがあつたのです。これらの地域からエルサレムに祭りを守るために集まっていたのです。11節の後半には、「彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」とあります。彼らが聞いたのは、自分のわかる言葉で、「神の偉大な業」でした。全世界の人々の罪の身代わりに、神であるイエス様が人として人間の世界に來られて、十字架の上で裁かれ、尊い血を流し、ご自分の体をささげられた。罪人の代わりに死んで下さったのです。死んで墓に葬られましたが、三日目によみがえらされて、罪と死に勝利されたのです。イエス様の十字架の死と復活を通して、人間の全ての罪が赦され、清められ、魂が救われ、死んでも生きる命、復活の命、永遠の命、天国の望みが与えられた、という神様の偉大なみ業を120名の人々は、聖霊に満たされて語ったのです。今も、キリスト教会を通して、キリスト者を通して、神様の偉大なみ業、十字架と復活、福音が語られているのです。

### III 結論部

ペンテコステ、120名の者たちが聖霊に満たされた出来事は、祭りに集まっていた多くの国々の、特に信仰深い人々にとって、無関心ではいられない、驚くべき出来事でした。人々の注目をあびる出来事でした。福音書に見る弟子たちの自己中心的な、この世的な、人間な状態は、聖霊に満たされて変えられました。聖霊に満たされて、弟子たちの内側が変えられ、心が整えられました。恐れが信頼に変えられ、不安が平安に変えられました。自己中心的であつた彼らは、神様中心に変えられました。また、弟子たちの思いが変えられ、自分の視点ではなくて、人間的な視点ではなくて、神様の視点で、物事を見るようになりました。弟子たちの心に、神様の言葉が生きて働くようになりました。神様の御心、イエス様の御心が理解できるようになりました。自分の計画よりも、神様の計画を優先するようになるのです。イエス様は最後の晩餐の席で弟子たちに、「**言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。**」(ヨハネ 16:12-13)と語られました。私たちも聖霊に満たされて、弟子たちと同じように変えられるのです。聖霊に満たされ、聖霊にご支配されて、私たちは、やりたくない事でも神様のために選べるようになります。私たちの弱さの中に、聖霊が、神様の力が働くのです。自分では、自分の力ではできないことも聖霊は可能にするのです。イエス様は言われました。「**あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。**」(使徒言行録 1:8) 120名の人々は、聖霊を受けてイエス様の証人として、神様の偉大なみ業を語ったのです。私たちも聖霊に満たされ、

聖霊に支配される時、内側が変えられ、整えられて、イエス様の証人として、イエス様の十字架と復活、福音を語る者に変えられていくのです。私たちも聖霊に満たされ、力を受けて、福音を語る力、福音を証しする勇気、隣人を、他の人を愛する力、奉仕する力が与えられるのです。また、聖霊に満たされると共同体に、教会に一致が与えられるのです。争いが減り、証が生まれ、一致が与えられ、互いに仕える心が与えられるのです。私たちは聖霊に満たされるために祈り続けたいのです。「**天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。**」(ルカ 11:13)と聖書は語ります。また、私たちは日々聖書に、神様の言葉に触れて神様に従う心を養いたいのです。聖霊は従順な心に働くのです。自分の知恵や力に頼るのではなく、ただ神様に信頼したいのです。聖霊は弱さを認める者に働いて下さるのです。ペンテコステ、聖霊は与えられて、福音が語られてキリスト教会が誕生しました。今もキリスト教会は、キリスト者は、聖霊に満たされて、人々を引き寄せる魅力と力があるのです。私たちはこの週も、神の言葉と祈りを大切に、そこに聖霊が与えられることを信じて歩んでまいりましょう。